

## 第4回中部 MIST 研究会ハンズオンセミナーに参加して

医療法人尚和会 宝塚第一病院  
手術室看護師 辻 真実

2015年9月12日(土)、富山にて第4回中部 MIST 研究会が開催されました。本会に先立って行われた看護師対象ハンズオンセミナーに参加致しましたので、私の感想も交えて報告させていただきます。

私が勤めている宝塚第一病院では、3年ほど前から脊椎手術が始まり、脊椎手術看護への勉強が必要となっておりました。富山という関西からやや離れた away の地で、またこういったセミナーに参加の経験が少ない私にとっては、少々冒険的な小旅行となると思われましたが、非常に興味深いセミナーと思い、参加を決めました。

セミナーではまず、佐藤 公治先生の開会挨拶に続き、脊椎外科医によるレクチャーとして日本鋼管病院脊椎外科センター 大森 一生先生より「後方・側方進入低侵襲椎体間固定術の概要と注意点 – 執刀医の観点から – 」と題して講義をして頂きました。MIST 手技の特徴、特に XLIF に関してご説明下さいました。XLIF での既往歴(腎臓摘出などの後腹膜手術)による手術体位の違いや、体位をとる際の注意点を教えて頂きました。

続いて、名古屋第二赤十字病院手術室看護師 関上 彩さんより「器械出し実践と工夫 脊椎脊髄外科ナースを目指して」と題して、器械出し看護師として、①術式、②手術器械、③MIST 手術特有の合併症についての理解が不可欠であることを教えて頂きました。また、MIST 手技や器械の特徴から、術野での変化に気づくのが通常の手術より遅れるため、高い位置から術野を観察し、術者の声に耳を傾けるといった工夫を紹介して頂き、非常に参考になりました。

次に、はちや整形外科病院手術室看護師 丹羽 雄二さんより、「MIST 器械出し早期習得を目指して」と題して、新人スタッフへの教育の取り組みと動画を用いた器械出しのポイントについて教えて頂きました。「術者の気持ちになろう」という言葉が印象に残りました。動画を使った説明で、術者が器械を受け取りやすい位置で、器械を持つ位置を配慮して器械出しをされていることがよくわかりました。こういった事を習得するには、術式や器械出しへの理解は必須であり、それらに精通することがより安全に、より患者様の負担を軽くする手術に繋がると感じました。

レクチャー終了後は、セミナーに参加した 28 名が 5 つのグループに分かれ、ドライボーンを使用したハンズオンに移りました。私が参加したグループは蜂谷先生が Faculty Dr. として担当して下さいました。手術手技、器械に関する知識は勿論のこと、安全に手術を進めるための細かい注意点などを交え、手術デモンストレーションをして頂きました。

蜂谷先生には何度も質問に優しく答えて頂き非常に有意義な実習でした。また、メーカーの方々も日頃感じていた多くの疑問に丁寧に回答して下さいました。

多くのことを学び、自分自身の脊椎手術に対するモチベーションがさらに高まるセミナーでした。同僚、後輩と協力して自院でも患者様のための手術看護が実践できるように取り組んでいこうと心あたらたにする機会となりました。

最後に、遠い関西からの参加にもかかわらず快諾して頂き、貴重な勉強の機会を与えて頂きました事務局の方々、各先生方、メーカーの方々に感謝いたします。

ありがとうございました。

平成 27 年 9 月 19 日

